

## <堺市>

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて
  - 会計年度任用職員の学校司書の配置  
(中学校週2日、小学校週2日)
  - 学校図書館サポーター(有償ボランティア)の回数配置  
(中学校年間72回、小学校年間107回)
  - 拠点校学校図書館職員による巡回訪問
  - 市立図書館による団体貸し出しの実施(運搬も行う)、子ども読書の日の読み聞かせ、図書館見学の実施
  - 選書支援
  - 子ども司書体験の実施
2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について
  - 堺市学校図書館協議会では、会長、副会長、顧問、代表幹事、幹事、委員をおき、読書感想文コンクール、読書感想画コンクールを実施している。  
委員には、小学校では各校より司書教諭や学校図書館関係職員が、中学校では学校図書館部会担当の教職員がなっている。
  - 初等教育研究部会、中学校教育研究部会に図書館部会を設置している。
3. 学校図書館の具体的な活動例
  - 学校図書館教育を推進するために拠点校を2校(小学校1校・中学校1校)指定している。  
その実践は、初研や中教研の部会等で随時発表をしている。
  - 7月に中学校図書館部会主催の「堺市連合読書会」を設け、各中学校より生徒4名が参加、1冊の図書についての話し合いやディベートを行っている。→今年度中止
  - 6月に全校に要項を配布し、8月末に作品の募集を行っている。各学校内での1次審査、学校図書館担当教員による2次審査、図書館部会の教員や担当校長による3次審査の上、大阪府読書感想文コンクールへの応募作品を決定し出品している。
  - 11月堺市の読書感想文コンクールの表彰式を行っている。→今年度より再開
  - 1月に堺市での読書感想画コンクールの審査を行い、大阪府読書感想画コンクールへの応募作品を決定、出品している。

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について
  - データベース化し、PCで管理している学校が増えている。  
ソフト購入時は市教委に報告し、各校の状況に合わせて実施している。市教委による予算化はしていない。
5. 学校図書館に関して、特徴的なこと
  - 堺市読書感想文コンクールでの特選、優秀作品を掲載した作品集の作成を行っている。
  - 年に1回、「学校図書情報」(リーフレット)を全校配布し、読書感想文コンクール、感想画コンクールの入賞者一覧や、協議会会長、市教委、初研・中教研部会代表による寄稿文を掲載している。
6. コロナウイルス感染の対策について
  - 図書室の使用前後の手洗いの励行をしている。
  - テーブルに透明のパーテーションを設置している。
  - 昼休み等の開室時、人数制限を設けたり、来室できる学級を指定したりする制限を設けている。  
(1月末の市教委通知により、基本的な感染対策を行ったうえで通常通りの開館となる。)
7. タブレット導入について
  - 市内の全学校図書館においてWi-Fi環境が整備されており、学校図書館での図書とタブレットを併用した調べ学習の実施を促進している。
  - 令和3年度まで、希望する学校に冊子を配付して実施していた、本市独自の取組である「読書ノート」について、今年度より電子版が作成され、タブレットを活用して読書の記録ができるようになった。
  - 電子版の導入については、各校によって差があり、使用する児童生徒数は冊子の活用時に比べ減少している。今後はうまく活用している事例を発信するなど、活用を促進していきたいと考えている。

## <泉大津市>

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて
  - 小中学校に図書館司書を各1名配置。雇用形態は会計年度任用職員。(週4日19時間勤務)

## 2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

- 管理職の顧問を中心に、各校の読書感想文担当者年4回集まり、読書感想文・感想画コンクールの業務や情報交換等を行っており、市内の審査はこのメンバーで行っている。また、読書感想画コンクールについては、市教育研究会図書工部会と連携して、取りまとめ及び審査を行っている。
- 市教育委員会主催で、図書館担当者連絡会と学校図書館整備事業研修会を複数回開催。
- 本年度は、事業部として府審査・表彰式等に代議員・担当者（図書・図工部）が事業部員の役割を分担した。

## 3. 学校図書館の具体的な活動例

- 市内8小学校中5校において、休日の地域への図書館開放を行った。（プレ・オープン含。貸出業務はしていない）。運営は地域人材で行い、コミュニティスクール支援事業として、市の補助金や教育委員会のサポートあり。読書活動のほか、地域交流の拠点としてイベント等にも活用している。

## 4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- 市立図書館（シーブラ）と学校図書館間のシステム一元化に伴い、学校図書館で個々に管理していた図書のデータや表示を統一化。市立図書館職員が各学校に出向き、ラベル・バーコードの不一致の解決を図る。

## 5. 学校図書館に関して、特徴的なこと

- システム一元化に伴い、授業で図書館の使い方や請求番号の説明等の指導が可能となり、学校図書館の「情報センター」「学習センター」機能の強化を図っている。

## 6. コロナウイルス感染の対策について

- 図書室入り口に消毒液の設置。
- 授業終了後、休み時間解放後に机上をアルコール消毒。

## 7. タブレット導入について

### 現状

- 市内全校の全児童生徒1人1台タブレット（iPad）を配布済み。授業ではロイロノート、タブレットドリル等を使用。また、グーグルク

ラスルームでのリモート授業を行っている。総合の授業ではプログラミング作成にも使用。

- 電子書籍サービス School e-Library を本市で一括導入し、全児童のタブレット端末からいつでもどこでも読書ができるようになっている。

### 問題点

- タブレット端末の故障・入れ替え等の費用負担
- 家庭での使用マナーを徹底しにくいこと。
- 教員のICT操作スキルの向上が必須。
- Wi-Fi環境等接続が不安定な時があること。

## <和泉市>

### 1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

- 各校に学校図書館支援司書が1名配置されており、図書館運営の支援をおこなっている。

### 2&3. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

#### ○ 小学校

和泉市小学校教育研究会図書館教育部会では年間6回の研究会を開き、本の紹介、講師を招いての研修、図書館等の施設見学、各校で取り組んでいる委員会活動の報告等を行っている。

#### ○ 中学校

和泉市中学校教育研究会図書館教育部会では年間4回の研究会を通じて、研究課題について協議・検討し、学校図書館のあり方について考えている。令和4年度は、「学校図書館を利用した調べ学習」に関する公開授業を2回実施し、研究を深めた。

### 4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- 小学校20校中8校・中学校9校中3校・義務教育学校1校中1校が、図書の電子管理システムを導入している（令和3年6月時点）。

### 5. 学校図書館に関して、特徴的なこと

- 和泉市の電子図書館の利用が、市内全児童・全生徒が可能となる。
- 市立図書館と連携しながら、学校図書館の活用を推進している。

## 6. コロナウイルス感染の対策について

- ・入室前の手指消毒
- ・机と座席の間隔の確保による密の回避
- ・貸出カウンターに飛沫防止シールドを設置
- ・換気の徹底

## 7. タブレット導入について

- ・Google classroom やロイロノートなどの活用が各学校で進められ、授業や家庭での活用が定着しつつある。
- ・令和4年度からは市全体にAIドリル（キュビナ）が導入され、活用が進められている。

### <高石市・忠岡町>

#### 1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて

- ・学校司書が各校週2日勤務で1名配置、その他、学校図書館サポーターがボランティア（有償・市費）で配置されている学校もある。

#### 2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

- ・高石市忠岡町小学校教育研究会図書館部会では年7回の研究会を開き、各校の図書館教育の交流や、読書感想文の地区審査についてはオンラインにより開催している。

#### 4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- ・市内の学校でコンピュータ化、蔵書データのMARCを使用しているが、台帳（紙媒体）での管理の学校もあり、市や町で一元管理はされていない。

#### 5. 学校図書館に関して、特徴的なこと

- ・読書ノート（1～4年100冊分、5～6年20冊分）  
書名と感想を書き、ノート1冊分記入すると表彰している。
- ・市立図書館と連携しながら学校図書館の活用を推進している。

## 6. コロナウイルス感染の対策について

〈行政の支援内容〉〈市内学校の独自の対策〉

- ・今年度も、コロナ禍で、学校図書館での感染予防対策を行いながら読書活動を推進している。  
また、3年前より読書感想文の地区審査に関しては、ICTを活用し、オンラインで審査を

おこなっている。

【市内学校独自の対策】

- ・手洗い・手消毒・貸出し・受付・消毒の順で感染対策をとっている。

## 7. タブレット導入について

### 現状

GIGA スクール構想の実現により「一人一人の能力や適性に応じて個別最適化された学び」を実現するため、R2年度より児童に一人一台のタブレットが市内全ての小中学校全児童に配備され、各教室には無線アクセスポイント、プロジェクタ、大型テレビが備え付けられた。しかし、タブレットPCを配備し環境を整えただけでは、個別最適化された学びが実現するとは言いえない。学ぶことに興味や関心を持ち、見通しをもって粘り強く取り組み自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」から生まれる「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還が必要であると感じている。今年度も高石市でスマートスクールモデル校の取り組みを授業公開していただき、市内小中学校において、「主体的な学び」から生まれる「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業イメージをもつことができた。

### 問題点

授業実践へのICT機器、とりわけ一人1台端末の導入はコロナ禍を背景に急速に進んでいる。

急速に普及するICTの活用にあたっては、セキュリティ保持といった面での問題や利用の仕方そのものの教員研修、さらには児童生徒の利用モラルの指導といった面での課題は大きい。

教育上においては、教科等の指導の本質的なねらいを実現する手段としていかに効果的にICT、とりわけ一人1台端末を学習指導に取り入れていくのかについて更なる検討を要する状況である。またそうしたことを踏まえて授業改善を進める必要があると考えている。個別最適で協働的な学びを推進していく上で、児童生徒がお互いを尊重し合える人間関係を構築していくツールとして、一人1台端末の活用が求められる。